



東部地域病院だより



一次救命処置：BLS の必要性について

一次救命処置：BLS（Basic Life Support）とは、心臓や呼吸が停止した傷病者に対して、その場にいる人が救急隊や医師に引き継ぐまでの間に行う応急手当のことです。当院では毎年職員のBLS研修を実施しております！研修受講対象者は、医師や看護師だけでなく、院内で勤務する全職員を対象とし、全職員が迅速で適切な蘇生技術を提供できるように取り組んでいます。



◎ 一次救命処置（BLS）の手順 ※成人向け

傷病者発見（意識なし）

自分のまわりの協力者を求め以下の対応を実施

①119番通報 ②AED(自動体外式除細動器)要請

大きな声で呼びかけを行い、呼吸を確認

呼吸なし or 正常呼吸でない場合・・・

心肺蘇生法（CPR）を開始



AED到着後、CPRと同時並行でAEDを傷外者につけ、音声操作に従って解析を実施。指示があれば、スイッチをおして通電（ショック）をする。

【心肺蘇生法のポイント】

①胸骨圧迫 30回

→胸の真ん中に両手を重ねて置き、脊柱に向かって垂直に胸骨を強く（少なくとも5cm）圧迫します。圧迫したら、すみやかに力をゆるめ、胸が元の高さに完全に戻るように圧迫を解除します。胸骨圧迫は「強く・速く・絶え間なく」を意識して行うことが重要です。

②気道を確保し、人工呼吸を2回

※①と②を繰り返す



アウトドアや旅行中のアクシデント、地震や台風などの災害等で救命処置が必要な場面に出くわした場合に備え、正しい知識と適切な処置の仕方を知っておきましょう。保健所や医師会から講習会のアナウンスがあれば積極的に受講してみてください。

放射線科 3検出器型頭部SPECTの導入及びMRI装置更新のお知らせ

スペクト 3検出器型頭部SPECT装置



この装置は、認知症や脳梗塞等、頭部の血液の流れが影響する病気を詳しく調べる検査に使用します。検出器が通常2つのところ、3つに増えたことで画質が大幅に改善し、詳細な画像により病気を早期に発見することができます。

また、検査時間が短縮され、長時間じっとしていただけない患者さんでも動きによるブレが少ない画像を得ることができます。

この装置（GCA-9300R）を導入している病院は都内で4箇所目、6地区（葛飾・足立・江戸川・墨田・江東・荒川）では初となります。

当院では、最新ソフトウェア及び最新コイルを搭載した新しいMRI装置を導入しました。新装置では検査をする部位により適正な撮影条件を細かく設定できるため、これまでより歪みの少ない画像を短時間で撮影可能です。

また、MRI特有の騒音に対しても、一部の撮影では大幅な低減を実現しております。

更に、新たな検査を開始し、腎不全やアレルギー等で造影剤を使用できない患者さんには、造影剤を使用しないで下肢血管を撮影することも可能となりました。

詳しい内容はかかりつけ医の先生にご相談ください。



MRI装置



今後もよりよい医療の提供を目指し、職員一同取り組んでまいります。

公益財団法人東京都保健医療公社 東部地域病院
電話番号 03-5682-5111(代表)
HPアドレス(PC) <http://www.tobu-hp.or.jp/>

(携帯)

